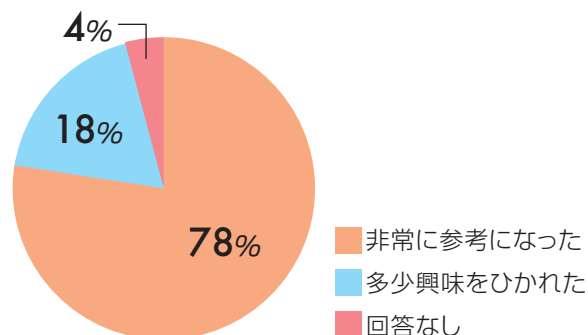


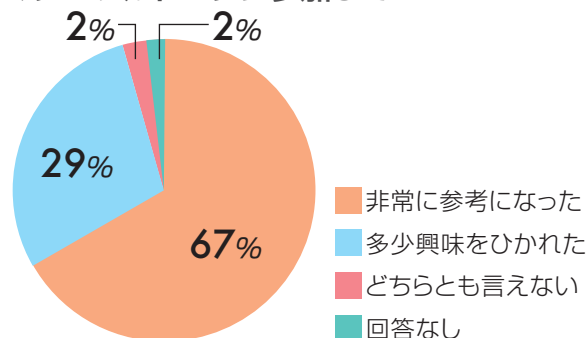
アンケート結果

交流会の当日、参加者の皆さまにご協力いただきましたアンケートの結果を一部ご報告させていただきます。多くの皆さまが「非常に参考になった」とお答え下さったことに、私達WIN-Japanのメンバーもたいへん嬉しく思っています。また、いただいた貴重なご意見は、次回以降の運営の参考にさせていただきます。ご協力、ありがとうございました。

Q.東嶋和子さんの講演を聞いて



Q.テーブルトークに参加して



アンケート自由記入より

- 浜岡の原子力が始まって40年が経過しました。1,2号機の廃炉、6号機建設の話がありますが、地域の皆と真剣に考えていきたいです。
- 1,2号機の解体方法の説明を聞いて、ある程度納得はしたが、安全を十分に考慮しながら進めてもらいたい。
- 今日是一日とても有意義に勉強することができました。またこのような機会があれば、友達も誘って、ぜひ参加します。
- 原子力施設や放射線についての理解を深めるために、このような交流会や説明会を地域で何度でも開いてほしい。

WIN-Japanとは

WIN (Women In Nuclear) は、原子力・放射線利用の仕事に携る女性の国際的なネットワークです。原子力平和利用推進の立場から、女性と次世代層を主な対象として原子力理解活動を行うことを目的としています。この目的のために、WIN会員は、原子力発電や放射線利用に関する研究成果、技術向上などについて情報交換し、会員の資質を高めることによって、より高い成果をあげて目指しています。WIN-Japanは、WINの日本組織として、年次大会やテクニカルツアーなどを行う他、原子力の立地地域で実施する女性交流会など、女性の視点と言葉で、原子力のより正しい理解への取り組みを進めています。



会長 小川順子 (日本原子力発電 (株))

WIN-Japan ホームページ
<http://www.win-japan.org/>

WINからのメッセージ

今回は御前崎での2回目の交流会ということで、前回ご参加いただいた方に再びお会いでき、そして初めてお越しくださった方も新しい絆を築け、本当に嬉しく思います。難しいと敬遠されがちな放射線について、対話形式で皆さまにご理解いただけたことは、私たちの勇気になりました。また、皆さまより頂戴した貴重なご意見も、今後の活動への大きな糧となりました。より分かりやすい原子力理解活動を進めるため、今回の経験を活かしてまいりたいと思います。メンバー一同、皆さまにお会いできる機会がまた訪れますようお願いしております。



講演と女性交流会 in 御前崎

じっくり話そう、エネルギーや原子力のこと

2007年7月に引き続き、2回目となる御前崎での女性交流会。お忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。短い時間でしたが、「皆さまとの貴重な語らいの記録」としてこの報告書をお届けします。ぜひご一読いただき、出会いのひと時を思い返していただければ幸いです。

2009年1月25日(日)

御前崎グランドホテル
 コンベンションホール駿河

主催: WIN-Japan (ウイン・ジャパン)

協賛: 財団法人日本原子力文化振興財団
 中部電力株式会社

Program

- 第1部 10:30~12:00
東嶋和子さん講演会
- 昼食会 12:00~13:15
WIN-Japanメンバーとご一緒に
- 第2部 13:15~15:30
交流会 テーブルトーク



第1部

講演会「ご存じですか?暮らしの中の放射線」
科学ジャーナリスト 東嶋 和子さん

放射線を正しく知り、正當に怖がる

自然に受けている放射線

皆さんにご質問です。「今、私たちがいるこの部屋にも放射線はある」というのは○か×か? 正解は「○」ですね。地球は宇宙にある放射線を出す元素が固まってできました。その地球で暮らす私たちは、宇宙から、大気から、そして地球の大地からも自然に放射線を受けているのです。

暮らしを支える人工放射線

日常生活の中でも、人工放射線の技術が実用化されています。工業分野でのラジアルタイヤの強化、医療分野での器具の滅菌、また農業分野でのイネや梨などの品種改良やジャガイモの芽止め等、放射線はさまざまな分野で私たちの暮らしを支えています。

量と管理が大切

人への影響においては、自然放射線も人工放射線も同じです。塩や薬のように、使い方や量によっていい作用、悪い作用があります。放射線は目に見えないけれど、測ることができますので、量を守り、きちんと管理することが大切なのです。

放射線を「正しく知ることで、むやみな不安をなくして正當に怖がって」いただきたいと思います。

東嶋 和子(とうじまわこ)

筑波大学比較文化学類卒業後、読売新聞入社。科学部記者として活躍後フリーとなり、新聞・雑誌に執筆。「いのち」をキーワードに科学と社会のかかわりを追求する。近著に「放射線利用の基礎知識」など。



放射線測定を体験



参加者を代表して事前に「はかるくん」で自宅や屋外の放射線を測定していただいた釜下さんと増田さん

今回は各テーブルに簡易放射線測定器「はかるくん」を配布し、参加者の皆さんにも放射線測定を体験していただきました。「意外に簡単に測れるのね!」と、会場内や、花崗岩や湯の花のサンプルと、いった自然の放射線量を次々に測定されていました。



第2部

Table Talk

テーブルトーク～概要～

講演を聞いて

- 生活の中で放射線が役立っていることを多くの人に知らせたい。
- 私たちの身のまわりにはいろいろな放射線があるけれど、要は「量の問題」と「使い方」なのね。



原子力エネルギー

- 電気の1/3を原子力に頼っている今の生活。将来にわたるエネルギー需要や、地球温暖化のことを考えると原子力なしではやっていけない。



浜岡原子力発電所の1,2号機運転終了/6号機増設

- より安全な発電所が造られるなら、よい選択だと思う。
- 何故出力を大きくする必要があるの?
 - 原子力はベース電源であるため、出力が大きい方が効率的です。
 - 新設6号機の出力が既設の1,2号機より大幅アップするなら、放射線の量も多くなるの?
 - 出力と放射線の量は比例しません。外部に放出する放射線の量は変わらないように設計されます。



事故やもしもの場合

- 原子力発電の必要性は理解しているつもり。でも、人為ミス等、100%安全なのかは不安。
- 事故や地震の時は、電力会社と自治体が連携して、避難方法やヨウ素剤の配布についてなど分かりやすく情報配信してほしい。

原子力発電所のある地域として

- 安全をしっかり守ることが大前提。発電所が建設されて40年、お互いに理解しあって共存共栄していくことが大切。

放射線の利用

- 市場にあるジャガイモは冷蔵保存によって発芽を遅らせ、そのコストや消費エネルギーについて私たちはあまり意識しないけれど、私たち消費者も食品照射について、近い将来、知らないでは済まされなくなる。
- 主人のがん治療では、放射線がかけがえのない命を救ってくれた。正しい理解と正當に怖がることの必要性を感じている。



地震

- 中越沖地震は他人事ではない。このところ地震が続いているので不安を拭い去れない。
- 昔の耐震指針に基づいて設計されている浜岡原子力発電所は、地震が起きても大丈夫?
 - 浜岡原子力発電所など既存の発電所についても、新しい耐震指針に沿って見直され、必要に応じ補強されています。

原子力広報

- パンフレットやチラシには難しい言葉を使わないで。
- 数字で説明されても、数字の意味がわからないと理解できない。
- 情報隠しはもちろんあってはならないけれど、むやみに一般住民の不安を煽ることのないよう、公開する情報を重要度に応じて選択できないか。
- 文書だけではなく対面で説明されると、より理解が深まる。



浜岡を出てからの使用済み燃料原子燃料サイクル

- 使用済み燃料の処理を安全に行ってほしい。
- 再処理施設や全国の発電所から発生した放射性廃棄物を受け入れている六ヶ所村には感謝している。



皆さんとの語りを通じてWINメンバーが感じたこと

- 「老朽化はどんなものにもあるもの。ものを大切にすることも必要だが、技術の進歩に伴い新しい技術を選択していくこともコスト面・安心感の観点から大切」とのご意見に、日頃勉強されている様子を感じ、頭が下がった。と同時に、私たちの情報提供の仕方、コミュニケーションのとり方が改めて重要なのだと実感。
- 非常時に対する不安は、住民の方なら誰でもお持ちのはず。非常時の情報伝達の仕組みや避難方法について、住民一人ひとりに届く説明を考えていきたい。

